

構成主義に基づく英語授業
—国際バカロレアの英語教材と検定教科書を比較して—

早稲田大学 本庄高等学院
赤塚 祐哉

対象者	高校2年生
実施場所	早稲田大学本庄高等学院（学校法人早稲田大学が設置する高校で、原則全員が早稲田大学に進級する高大一貫教育を実施。）
クラス規模	1クラス41名×2クラス
実施科目名	コミュニケーション英語II
実施期間	2017年4月上旬から2018年2月下旬まで。 （週3時間、1時間あたり50分）
生徒の英語力	生徒（n= 82）が授業実践前に受検したTOEIC®スコアの平均点は489.23点、標準偏差（SD）=184.61であり、集団としての等質性が弱い。

(Anderson and Krathwohl, 2001)

・ 低次の思考力(Lower Order Thinking Skills: LOTs)
(記憶する、理解する、応用する)

・ 高次の思考力 (Higher Order Thinking Skills: HOTs)
(分析する、評価する、創造する)

● 国際バカロレア (IB) の英語科目ではHOTsも重視

● IBの学習は構成主義的な学習の特徴である、社会的関係性の中で知識を構成していくプロセスを重視しており、学習者を中心とした対話・交流型の学習を取ることが多い。

【IB】

最大で36%程度がHOTsのレベルに該当する

【検定教科書】

HOTsのレベルは最大で6%に留まる

(河野, 2016)

- 新学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びにつながる英語授業への道のりは長い。
- 対話・交流型の学習における話すことに対する抵抗感の変化を「スピーキング抵抗感尺度」(磯田, 2008)を用いて量的に分析する。

【検定教科書】

- What percentage of the water on the earth's surface is fresh water?
- How many black players were there on the Springboks team?
- Why would Japan be easily affected by a worldwide food shortage?

→教科書本文を読み、該当箇所を見つける学習（作業？）

- Search for “water cycle” on the Internet. Then, discuss why forests and rice field are important for the natural water cycle.

→調べて分かったことを話し合う

- If you worked for the Singapore government, how would you convey the safety of NEWater to the citizens?

→このような質問は非常に少ない。

【IB】

What does it mean to live a healthy lifestyle? Does it mean having a healthy diet? Does it mean exercising regularly? We all have our own definition. Discuss with your classmates.

Are your ideas are different or similar to your classmates? If different, why are they different? If similar, why are they similar?



What do you see when you look at the logo on the left? Write down the first thing that comes to mind.

Q1 The text presents a ‘top five’ list of the world’s most dangerous sports, but they are not in the correct order. Read the text above, **then rank the paragraphs in the correct order using your original criteria.** After that, **compare with a classmate’s ranking. How are your lists similar or different?**

Q2 Words a-f listed below are taken from the text. Match these words with a synonym from the box.

Q3 How formal or informal is the tone of a text? Rate the text on a scale of 1 to 5, where 5 is very formal/academic and 1 is very informal. **When you rate, give specific reasons to support your answer.**

Q4 Decide whether each of the following statements are true or false and justify your answers with a relevant quotation from the text.

Q5 The author’s ranking of these five sports as ‘the most dangerous’ is ambiguous. **‘Dangerous’ will be interpreted different by different people. In the text, find and underline facts or evidence to support the author’s opinions.**

●Q2とQ4は英文を読み、語彙を記憶・理解したり、事実を見つけ出したりする学習なので、低次思考力の「理解する」レベルに該当すると考えられる。

●一方、Q1、Q3、Q5は高次思考力の「評価する」、「創造する」に該当すると考えられる。

●実践を始めた最初の頃は高次思考力を試される質問への回答に対して、多くの生徒が苦勞している様子が見られた。しかし、実践10ヶ月目には慣れが出てきたようで、スムーズに回答したり、語彙・表現の幅が増え、むしろ楽しみながら取りくんでいる様子が見られた。

●「他の人がどのようなことを考えているのか、違うことが面白い」と答える生徒も複数出てきた。

- 国際バカロレアの外国語教育では知識の理解・応用はもちろん、分析したり、評価したり、創造したりする学習活動も重視
- 生徒同士&教師と生徒による討論・議論等が行われる。
- 教師は英文の事実を確かめる質問に加えて、生徒が自分の意見や主張を論理的に述べることを求める質問も多く投げかけることを特徴としている。
- 国際バカロレアの授業スタイルを参考とした英語授業を行うことで、生徒の語彙・表現の変化やマインドセットが変わるのではないだろうか。
- 話すことへの抵抗感の変化をみてみた。

スピーキング抵抗感尺度を用いたアンケート (磯田, 2008)

1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 やや当てはまらない
4 どちらでもない 5 やや当てはまる 6 おおむね当てはまる 7 よく当てはまる

- 3 私が話す英語は、相手に意味が伝わらないと思います (能力・認知)
- 6 私は、今の英語力では英語で話すことはできないと思います (能力・認知)
- 9 私は、英語で話して、自分が考えていることを相手に伝えることができないと思います
- (能力・認知)
- 1 私は、人と英語で話す時、緊張します (不安)
- 5 私は、人と英語で話す時、ドキドキします (不安)
- 7 私は、人と英語で話す時、リラックスしています (R) (不安)
- 2 私は、できれば人と英語で話したくありません (回避)
- 4 私は、人と英語で話すことは避けたいです (回避)
- 8 私は、英語で話さなければならない時は、できるだけしゃべらないようにしたいです
- (回避)
- 生徒が回答する際には、因子の分類は削除して提示し、それぞれの項目をランダムに並び替えた上で提示している。

表1 スピーキング抵抗感の事前・事後比較 (有効回答数75人)

因子	事前	事後	p値
能力・認知	4.25	3.96	.011
不安	5.37	4.73	.000
回避	3.97	3.89	.436

- ・表1は事前と事後の結果を比較したものである。検定を実施したところ、事前と事後では全ての尺度で有意差がみられた ($p > .05$)。構成主義に基づく英語授業は英語で話すことに対する抵抗感が減る可能性が示唆される。
- ・有意差が見られた一方、事後でも平均値の3.5を超えている。
- ・抵抗感が減ったのは構成主義の授業のおかげ？それとも教師の授業運営のおかげ？他要素の可能性が排除できない。

磯田貴道. (2008).スピーキング抵抗感尺度の作成. 参考https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/2/24578/20141016145529381041/h-gaikokugokenkyu_11_41.pdf (2017年4月1日参照)

河野円.(2016). *A Comparison of English Textbooks from the Perspectives of Reading: IB Diploma Programs and Japanese Senior High School*. The Asian Conference of Language Learning 2016 Official Conference Proceedings. (http://papers.iafor.org/papers/acll2016/ACLL2016_29495.pdf)(2018年2月28日参照)

Anderson, L., & Krathwohl, D. A. (2001). *Taxonomy for Learning, Teaching and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives*. New York: Longman.

International Baccalaureate. (2014) . *Language B Subject guide*. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd

ご静聴ありがとうございました。

akatsuka@waseda.jp